兵庫県加東郡滝野町方言の立ち上げ詞

黒崎　良昭

Ⅰ．はじめに

1．調査対象地：加東郡滝野町は兵庫県南部のほぼ中央にあり、加古川の中流域に位置する。古く加古川が舟運に利用されていた頃は、米や材木、日用品の集散地として栄え、あるいは飛鮎の景勝地として多くの遊客を集めていた。現在は、町の南部を通る中国自動車道を利用すれば、滝野・社インターチェンジから大阪の中心部まで約1時間という便利さから、町郊外に大規模な工業団地ができ、小規模マンションや一戸建ての住宅が急増している。その結果、周囲の市町は過疎化の傾向を見せているにもかかわらず、町外からの人口流入が増えている。平成 18 年3月に社町、東条町と合併して「加東市」となる予定である。

2．調査年月日：2005 年 10 月 19 日　午後4時から6時まで。その後、適宜、補充調査を行った。

3．話者：糟谷宏氏（1933 年2月 24 日生　72 歳）

4．調査者・調査場所：黒崎良昭・話者自宅

5．調査方法：統一調査票による質問調査

6．その他：①アクセントは、棒引きアクセントで、高さの山に棒を引いた。

②必ずしも統一質問文の通りでなくても、回答された文例はなるべく多く掲げることにした。話者のコメントは＜＞内に、調査者の気づきは〈　〉内に記した。

③回答事象が複数にわたる場合、／の仕切り線を入れた。

Ⅱ．調査結果

1．自己の自発的な行動を立ち上げるために、自己に向かって発信する「立ち上げ詞」

(1)どっこいしょ。一休みしよう。

○アー　シンド。チョット　ヤスモー。＜ヤレヤレということも＞

(2)どうれ。出かけることにしよう。

○サー、デカケヨ　カ。

(3)よいこらしょ。とうとう山の天辺に着いた。

○ヤレヤレ。ヤット　テッペンニ　ツイタ。

(4)しまった。もうちょっとで落ちるところだった！

○アー　コワカッタ。／　アー　ビックリシタ。　モー　チョットデ　オチヨッタ。

(5)くわばらくわばら。恐ろしかった！時の言い方です。

○アー　コワカッタ。／　アー　ビックリシタ。<クワバラクワバラの類は言わない>

(6)しめた！　今度の魚は大きいぞ。

○ヤッター／　オー　カカッタ。　オーキー　ヤッチャ。

(7)ままよ。飛び越えるしかない。

○エーイ。トビコエナ　ショガナイ。

(8)なにくそ！　負けてなるものか。

○ナニクソ。マケル　カイ。

(9)しめしめ！　誰も気がついていない。

○エー　ソ。／　ヤッター。　ダーレモ　キガ　ツイトラン。

(10)ちえっ。つまらないなあ。

○チェッ。ショーモナイ　ノー。

(11)ちくしょう！　仕返しをしてやる。

○クソー。イマニ　ミトレー。

(12)くそっ！　覚えていろ！

○クソー。オボエトレ。

(13)おやおや、いったいどうしたの。

○ドナイ　シタ　ン。<おやおやの部分はなし>

(14)えへん、えへん。吾輩は村一番の力持ちじゃ。

○<無回答>

(15)はてな、ここはどこだろう？

○エーット　ココワ　ドコヤロー。<少し前までは、老年層でエーットの意味で「コーツト」が使われていた>〈明治 26 年生まれの、調査者の祖母も盛んに「コーツト」を使用していた〉

2．他者の発話に呼応して、応答の発話を立ち上げる「立ち上げ詞」

(16)はい、承知いたしました。

○ハイ、ワカリマシタ。

(17)はい。宜しゅうございます。

○ハイ、ケッコーデス。

(18)ええ、ここに居ます。

○ハイ、ココニ　オリマス。<へーも改まり意識を持って使われる>

(19)んだ。私の傘です。

○アー、／　エー、　ワタシノデス。

(20)さよう、さよう。あなたの言う通り。

○セヤ　セヤ、アンタノ　ユー　トオリヤ。

(21)ほいきた。おやすいご用です。

○ヨッシャ。エー　デー。／　ヨッシャ。　オヤスイ　ゴヨウヤ。

(22)よっしゃ。やりましょう。

○ヨッシャ。ヤリマショ／　ヤリマヒョ。<後者の「ヒョ」を使うほうが土地言葉らしい　表現である。>〈「大阪弁」のｓ>ｈ傾向は当該地域でも生きている。〉

(23)よしきた。お引き受けいたしましょう。

○ハイ、ヤリマヒョ／　ヒキウケマヒョ。／　(相手が同輩または目下の場合は) ヨッシャ。ヒキウケタ。

(24)がってんだ。一緒に行きましょう。

○ヨッシャ。イッショニ　イコ。

(25)かっぱのへだ。簡単だ。

○ヘッチャラヤ。

(26)いえいえ、とんでもございません。

○イエイエ、トンデモ　アリマセン。／　ゴザイマセン。

(27)なんの、たいしたことではございません。

○イエイエ、タイシタ　コトデワ　ゴザイマセン。<ナンノもあるかも。>／イーヤ。タイシタ　コッチャ　ナイ。

(28)なあに、擦り傷(すりきず)ぐらい、すぐ治るさ。

○ナンノ。スリキズグライ　ジキ　ナオル　ワ。

---

(29)なにさ、いつも調子の良いことばかり言って！

○ナンドイ。イッツモ　チョーシノ　エー　コトバッカリ　イヤガッテ。

(30)いやはや、とんだ目に遭(あ)いました。

○イヤ　モー　エライ　メーニ　オータ　ワー。

(31)へん、勝手にしやがれ。

○ヘン。／　フン。　カッテニ　セー。

(32)なめるんじゃねえよ。こいつ!

○ナメンナ　ヨー。コイツ。

(33)冗談じゃない。口から出任せを言って!

○ウソ　ツケ。ウソバッカリ／　カッテナ　コトバッカリ／　スキナ　コト　イヤガッテ。

(34)だまらっしゃい。出鱈目(でたらめ)ばかり言って!

○ウルサイ。ウソバッカリ　イーヤガッテ。／ユーナ。

(35)そうは問屋がおろさねえ。黙っていられねえ。

○ソンナ　コト　アル　カエ／　アホ　カー。　ダマットレル　カエ。

(36)うそもへチマもありゃしねえ。我慢(がまん)できねえ。

○ウソモ　ヘチマモ　アル　カエ。モー　シンボー　デケン／　デキヒン。

(37)寝言は寝ていえ。このやろう。

○ウソ　ツケー。アホー。

(38)あたりきしゃりきのけつのあな。当たり前だ!

○無回答　〈調査者は、「アタリキ　シャリキ　ケツノ　アナ　ブリキ」などと言ったり、「アタリマエダノ　クラッカー」などと言っていた記憶がある。〉

(39)きみょうきてれつだ。それは変だ。

○ソラ　ケッタイナ　ハナシヤ　ナー。

---

(40)ほほう、それは親孝行なお子さんですね。

○ホホー、ソラ　オヤコーコーナ　オコサンヤ　ナー。

(41)まいったまいった。しかたがない。

○コマッタ　ノー。シャーナイ　ノー。

3．他者との関係を立ち.上げるために、他者との言語情報を結節する「立ち上げ詞」

(42)もしもし、すみません。役場はどこにありますか？

○モシモシ、チョット　スイマセン。ヤクバワ　ドコニ　アリマス　カー。

(43)のうのう、旅の人。お立ち寄り下さい。

○モシモシ　オキャクサン　タチヨンナハレ　ナー。

(44)ほら、ご覧なさい。向こうに公園があります。

○チョット　ミテミー。ムコーニ　コーエンガ　アル　デー。

(45)やいやい。こんなに朝早くからどこへ行くんだ?

○オイ　オイ。コナイ　アサ　ハヨーカラ　ドコ　イク　ネヤ。

(46)よう、兄弟。これから何をするつもりだい?

○コラー　オマエ。コエカラ　ナニ　スン　ネン。

(47)いざ、さらば。

○デワ　シツレー　シマス。ホナ　サイナラ。

(48)ささ、ご遠慮無く、召し上がって下さい。

○サーサー、ゴエンリョ　ナク　メシアガッテクダサイ。

(49) さて、そろそろ一服しませんか。
○ホナ　ソロソロ　イップク　セーヘン　カー。
(50) これこれ、ちょっと静かにしなさい。
○コレ　コレ　チョット　シズカニ　シナサイ。コラ　コラ／オイ　オイ　チョット　シズカニ　セー。
(51) おい、こら。万引きをしてはいけない。
○オイ、コラ。マンビキ　シタラ　イカン。
(52) おどりゃあ。いい加減にしないか!
○オンドレ。エーカゲンニ　サラセ。
(53) おのれ、裏切りやがったな。
○オンドレ、ウラギリヤガッタ　ナー。
(54) どっこい。その手には乗らない。
○オット。ソノ　テニワ　ノラヘン。
(55) どうだ、参ったか?
○ドヤ、マイッタカ。

---

(56) せいの、よいしょ!
○セー　ノー、　ヨイショー。
(57) よういっ、どん!
○ヨーイ　ドン。
(58) いっせいの、で!
○セー　ノー　デー。
(59) よいしょ、よいしょ、もう一息だ!
○ヨイショ　ヨイショ　モー　ヒトイキヤ。
(60) うんとこしょ、どっこいしょ。もう少しだ。
○ヨイショ　ヨイショ　モー　チョットヤ。
(61) わっしょい、わっしょい、祭りだ、わっしょい。
○ワッショイ、ワッショイ　ワッショイ。／　ヨイヤ　セー　ヨイヤ　セー　ヨーイヤセ。ヨイヨイサ　ヨイヨイサ　ヨイヨイサ。〈後者は同町上滝野・春日大社での秋祭りの際に屋太鼓を持ち上げるかけ声である。〉
(62) はじめはぐう、じゃんけん、ぽん!
○イッサン　ホイ。アイコデ　ショー。
(63) きをつけえ、まえへならえ、なおれ。
○キョー　ツケー、マエエ　ナラエ、ナオレ。

(64)きりつ、れい、ちゃくせき。
○キリーツ、レイ、チャクセキ。

---

(65)ばんざい、ばんざい。やった、やった!
○バンザーイ　バンザーイ。ヤッタ、ヤッタ。
(66)えいえいおう。頑張るぞ。
○エイ　エイ　オー。ガンバル　ドー。
(67)中村君の誕生日を祝して、かんぱい。おめでとう。
○ナカムラクンノ　タンジョウビオ　シュクシテ　カンパーイ。
(68)やっほう、やっほう。
○ヤッホー、ヤッホー。
(69)ふれえ、ふれえ、白組。
○フレー　フレー　シ　ロ　グ　ミ。
(70)おにはそと、ふくはうち。
○オニワー　ソト、フクワー　ウチ。

---

(71)べらぼうめ、とんでも無い子だ。
○アホー、ドーショーモナイ　コヤ。
(72)それみたことか、わんぱく坊主。
○ソラ　ミー、ゴンタ。
(73)ざまあ、みろ。いい気味だ。
○ザマー　ミロ。
(74)ちくしょうめ、ひどいことを言いやがる。
○クソッタレー、　ドクショイ　コト　イヤガル。
(75)このやろう。どうしてくれようか。
○クソッタレー、ドナイ　シタロー。
(76)たわけ。ふぁざけた事を言うんじゃない。
○アホー。アホナ　コト　ユーナ。<ドアホ／ボケ／ダボもあるが、かなりきつい表現になる。>
(77)ばかやろう、いい加減なことを言うな。
○アホー。エーカゲンナ (エーカイナ) コト　ユーナ。<ドアホ／ボケ／ダボもあるが、かなりきつい表現　　になる。>
(78)あなかま、静かにしなさい。

○ウルサイ、シズカニ　セー。

(79) しいいっ、静かにして!

○シー、シズカニ　セー　ヤ。

(80) ちちんぷいぷい、蛙、蛙、生き返れ。

○無回答

(81) あっかんべい、鬼さん、こちら。

○アカ　ベー　オニサン　コチラ。

---

(82) あっぱれ、お見事。立派です。

○ヨー　ヤッタ。

(83) でかした、でかした。日本一。

○ヨカッタ　ヨカッタ。ニッポン　イチヤ。

---

(84) しっけい!　すみません。

○ゴメン。スンマセン。

(85) あばよ、達者でな。

○サイナラ。タッシャデ　ナー。／　ゲンキデ　ナー。<親しい場合は、ホナ　サイナラ。>

Ⅲ. 総括（まとめ）

1. 「I」の「自己の自発的な行動を立ち上げるために、自己に向かって発信する『立ち上げ詞』」については、無意識のうちに発話したり、言葉にならない「内語」の場合も多く、内省を求める調査では、実態が出にくいことが考えられる。

例えば、(1)の場合、「肩の荷物を下ろし、縁側に腰を下ろしたときの独り言」に関する調査であるが、そういった場合に、無意識に「ヨイショ」や「ドッコイショ」などとかけ声をかけることがある。これは高齢者に多いことから、年をとった証拠とされるが、当人は気がついていないことが多い。本調査でも、この問いのときにかなりくどく尋ねてみたが、やはり「ヨイショ」や「ドッコイショ」は言わないとのことであった。「I」はいささか実態がつかみにくい項目群ではなかろうか。

2. 「I」の回答例に挙がっている「どうれ」「くわばらくわばら」「しめた」「ままよ」「しめしめ」「えへん」「はてな」は、当該地域の現在 70 歳代の話者には理解語であっても使用語ではなく、かなり古い言葉と認識されているようである。

また、「Ⅱ」の（16）から（28）に関しても、回答例に挙がっている「ほいきた」「よ

しきた」「がってんだ」「かっぱのへだ」の回答は得られなかった。これらの言葉も当該地域では過去の語となっているようである。

3．(29)から（39）に関して、「相手の出鱈目・間違い・冗談」を糺す場合には、「ウソツケ」「ウソバッカリ　イヤガッテ」などのように、「ウソ」広く使われる傾向にあることが分かる。

4．(42)から（55）の中では「コラ」が特徴的であろうか。万引きをとがめる「コラ」から、子どもたちに静かにするように促す「コラ」、仲間内の呼びかけの「コラ」まで、幅広く用いられている。

5．(71)から(77)ののしり言葉の中では、大阪弁の「アホ」の使用が目立っている。悪ふざけの子どもにも「アホ」、相手をたしなめ、けなし、叱る場合にも「アホ」が使われている。さらに前出の(37)のような喧嘩腰になったときにも用いられるなど、大阪同様、当該地域においてもこの「アホ」は、気楽な場面からけんかの場面までと、広く用いられる。ただし、喧嘩の場面などで激しくののしる場合は、「ドアホ」「ボケ」「ダボ」などの出番となるようである。

6．全般的に見て、方言色は薄いようである。特に、待遇度の益す表現においては共通語的表現が目立って用いられていると言えよう。

（くろさきよしあき　園田学園女子大学）